

特別の教科 道徳の充実をめざして

道徳の時間」から 特別の教科 道徳」へ

平成 27 年 3 月一部改正学習指導要領が告示されました。小学校では平成 30 年度から、中学校では平成 31 年度から「特別の教科 道徳」が始まります。

これまで姶良市ではモラリティ・インブルーメント推進事業を通して、市全体で道徳教育に取り組み、様々な成果をあげています。今回の道徳の教科化は、これまでの実践をより強化する絶好のチャンスです。

そこで、今年度は抽出校のアンケート結果を基に、日頃行っている道徳学習をより強化するための実践例を紹介します。

特別の教科 道徳」の指導に関するアンケート結果から

「特別の教科 道徳」の指導に関するアンケートを小学校（抽出校）の教員を対象に行いました。アンケートの結果、「特別の教科 道徳」の指導方法について次のような悩みを抱えている先生方が多いことがわかりました。

考えを深めたり広げたりするには、どのような発問をすればいいのだろう。



発問の工夫



実践Ⅰ

子どもたちの思考を
深める！広げる！
発問の工夫

対話活動やグループ活動でいろいろな考えを引き出したいけど、うまくいかないわ。



話合いの工夫



実践Ⅱ

子どもたちの思考を
深める！広げる！
話合いの工夫

役割演技を行わせるタイミングや工夫はどうすればいいの。



役割演技の工夫



実践Ⅲ

どうすれば効果的？
役割演技の工夫

実践 I

子どもたちの思考を深める！広げる！発問の工夫

深めたり広げたりするための発問例

主人公の心情ばかりを問う発問だけでは、子どもの思考は深まりません。子どもたちが**道徳的価値や自分自身の生き方の追究につながるような発問**や多様な感じ方や考え方を引き出し、**多面的 多角的に考えさせる発問**などを取り入れてみましょう。子どもたちが、簡単に答えることのできる発問ではなく、一瞬考え込むような発問を考えましょう。

子どもたちの思考を深めたり広げたりする具体的な発問例

- どんな考えから、そう言った(した)のだろう。
- どうしてこんなことになってしまったのだろう。
- 主人公のしたことは、どこがいけなかったのだろう。
- このことから、あなたはどんなことを学びましたか。
- この行いを支えたものは何だったのだろうか。
- 一言つぶやいたとしたら、どんなことを話さだろう。
- 相手や周りは、どんな気持ちだったのだろう。

発問後に、すぐに別の言い方に直したり付け加えたりすることは子どもの思考が混乱します。発問は丁寧に、行うことが大切です。



子どもたちの思考を深めたり広げたりする発問の実践例

第6学年 資料名【はじめてのアンカー(学研)】 内容項目：4-(5)家族愛の実践例

授業展開の概要

運動会に行くことと約束していた父が、仕事の都合で運動会に来ることができなくなった時の主人公の気持ちをおさえたあと、お父さんやその周りの家族の気持ちを考えさせる発問をした。相手や周りの人の気持ちをおさえたあと、主人公がお父さんにどんな言葉をかけたのかと発問し、ねらいとする道徳的価値の自覚を深める。

発問1

主人公は、とても落ち込んでいるけど、お父さんやそのほかの家族はどんな気持ちなんだろうか。



お父さんも、本当は見なかったと思うな。

お母さんは、まさにお父さんの気持ちを分かっていたんじゃないかな。



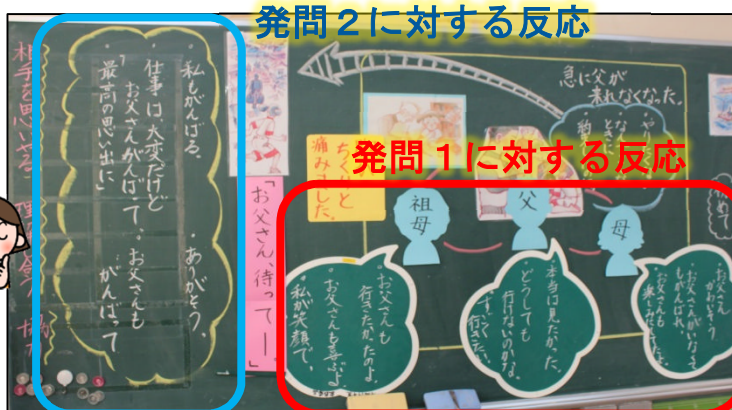
発問2

まきは、お父さんになんと声をかけただろう。



お父さん、ありがとう。 私もがんばるね。 仕事は大変だけど、お父さん、がんばって。

発問2に対する反応



発問をする前に教師が臨場感を出すことも大切です。場面絵やペープサートをもって発問したり、動作をまねしながら発問したりすることも効果的です。

主人公は、壊れた仏像を見たとき、どんなことを思っただろう。



実践Ⅱ

子どもたちの思考を深める！広げる！話し合いの工夫

話し合い活動の目的をはっきりさせる

子どもたちに話し合いを行わせるときは、**話し合う目的を明確にすることが**大切です。ただ、自分の考えを発表し合うだけの話し合いでは子どもたちの思考は深まりません。もちろん広がることもありません。

今回の一部改正学習指導要領の道徳科（平成27年3月）の目標には、「多面的・多角的に考え」という言葉が入りました。これは、相手の多様な感じ方や考え方を理解しながら、自分の感じ方や考え方を深めたり広げたりすること（他者理解）とも捉えることができます。

思考を深め、広げるための話し合いの場

話し合いの場として主に、ペア学習、グループ学習、全体学習とあります。それぞれの特徴としては以下のとおりです。

ペア学習

ペアでの話し合いは、他者からの共感を得て、自分の考えに自信をもつことができます。

また、自分と相手との考えを比較することで、自分の考えを整理し、新たな考えや感じ方を発見できます。

グループ学習

グループでの話し合いは、お互いの意見を交流することで、多様な考え方にふれることができます。

また、自分の考えを更に深めることができ、友だちの考えに共感する中で、多様な価値に気付く機会を増やすこともできます。

全体学習

全体の場で、互いの意見を交換し合い、多様な考えにふれることで、考えをより広げることができます。

また、クラス全員の考えを共有し、思考を深めることができます。

話し合いの実践例：6年生【一人で考えたことをもとに、友だちとの考えを比較しながら話し合わせる工夫】

一人で考える。



グループで話し合う。



全体で話し合う。



一人一人が自分の意見を発言できるように、グループの人数は3～4人で編成。
話し合うときに『自分』と『友だち』の考えを比較できるようにワークシートを工夫。

ワークシートの工夫

中心発問に対して、自分の考えを明確にもたせる(自)。

グループでの話し合いで新たにわかった考え方や感じ方を記録する(友)。

話し合いを通して、自分の考え方・感じ方の変化したことを記録する(変化)。

話し合い活動への**教師の関わり方**も重要です。話し合い活動の実態を踏まえて意図的な助言や支援を行ってみましょう。

□観察する（見守り）

□観点を与える（明瞭・指示）

□まとめる（整理・収束・確認）

□意欲付け・参画意識を高める（促し）

□方向付けをする（修正）

□参加する（意見・協同）



実践Ⅲ

どうすれば効果的？役割演技の工夫

役割演技を行うよさと留意点

役割演技とは、本時のねらいに即して、演技的な表現活動を即興的に自由に行わせることを通して、道徳的価値を体得させる方法です。

- 
- ① 演じる側の感情の表現が具体的になるので(声の調子、表情など)、**見ている側の共感や新たな問いを生むきっかけになる。**
 - ② 特定の役割を演じたり、役割を交代することによって**自他の立場や心情を具体的に理解できる。**
 - ③ 動作を伴うことによって、**話し合いだけでは得られないことを感じたり理解できたりする。**

役割演技は、こうしなければならないというものはありません。どう演じるかではなく、**どう表現したか(動作や口調、表情など)、どう感じたか(役割演技をして感じたこと、見て思ったことなど)**が重要です。演技の上手い、下手に目を向け、言及することは避けましょう。

役割演技の実践例：「りょうくんといちりんしゃ/学研（1年生）」での実践

C:「できるようになりたかったからだと思う。」

C:「みんなに応援してもらったからだと思う。」

T:「どうしても一度頑張ると言ったのかな？」

発問の工夫



臨場感を高める工夫

子どもが登場人物の役になりきって演技するために舞台、お面、ネーム、実物、BGMなどの準備をすることも大切です。

演技後の発問の工夫

演技をした子どもへの、その後の発問が大切になります。また、見ている子どもたちへの発問も大切です。

- ① 演技をした子どもに発問する場合

T:「では、〇〇さんにインタビューをしてみます。」(演技後の発問)

- 1) どうしてそんな演技(声の調子、表情など)にしたの？
- 2) 演技をしてみてどんな気持ちになった？
- 3) 何か気付いたことはなかったかな？

- ② 見ている子どもたちに発問する場合

T:「演技をしている友達から、どんな気持ちが伝わってきましたか。」

(見ている子どもたちへの発問)

このリーフレットは、始良市モラリティ・インクルーブメント推進事業のひとつとして、先生方の授業作りの参考のために作成しました。今後も、特別の教科「道徳」の授業がますます充実するよう、先生方からの意見や実践を紹介していきたいと思います。

平成 28 年 2 月 始良市道徳の時間指導法開発委員会